母親の心情経過分析のユニークな障害児子育ての本

新聞の書評が目に留まり、「明日へ　ひょうひょう（向陽書房）」を読んだ。障害のある子どもの母親の子育て本は世の中に溢れているが、期待に違わずユニークな本であった。

著者の娘は、出産の瞬間から、重度の身体障害と重度の難病であることは分り、医師は「まもなく死ぬだろうから母乳を与える必要もないから」と、母乳を出なくする処置をされた程である。著者は、一回も授乳することもなく、また体の変形、難病故に抱くこともおんぶすることも出来ないこともあり、命長らえた娘のために、誕生１年前までは神社に娘の成長を祈願するのでなく、「どうかムスメが死にますように」と手を合わせたという。

娘が幼稚園、小、中学、高校、大学と育つ中で、「私は私、あなたはあなた。たとえ母親であっても、私はあなたに代わることは絶対に出来ません。」とムスメに何度も言い聞かせる子育て。今も朝夕の残尿の導尿は母親が行っており、「運命共同体であるが、一心同体でない。」と娘に云う母親。明日で２７歳になる娘さんは今、「現実から逃げることなく」俳優になる道を一歩一歩進んでおり、「ムスメの生きる証を身近に感じている」という。

つまり、「障害のある子どもを持つということは、どういうことなのだろう？」、「ムスメのアイデンテイテイを尊重する母親になろう」という、自らの問いかけの心情経過に視点をおいた本である。また、障害児の母親は、被害者意識と、自分しかこの子を育てられないという悲壮感の高揚のミックスからの「マゾの快感」があると自己分析している。

「ムスメはムスメ、私は私」という母親らしく、４０歳過ぎてから博士号を取得したとか。また、ムスメのＨＰサイトアドレスは記載せず、「ヤフー公式サイト→障害者　車いす　ダンス　→ CONVEY」と記しているだけ（私は早速検索してＨＰを訪ねましたが、母親の意図を尊重（？）して、私もアドレスは記しません）。

娘さんは母親より心広い（？）のか自分のＨＰには、母親の著書の紹介が記載されています。

先に当ＨＰ（バックナンバーＰ：2004/6/16「受容への過程・仮説模式図－試作－」　）で、親の心情経過の模式図を提示しただけに、大変参考になる本であった。模式図の縦軸は、「受容の高低」としたが、「ムスメの生きる証を身近に感じている」という著者の記述を見て、この縦軸でいいのでないかと再確認した。

（2004 年 08 月 13 日　記）